シグマ光機株式会社

証券コード：7713

OptoSigma®

第44期 報告書

2018年6月1日 ► 2019年5月31日

光なら、きっとできる。

Light Solutions for Life®

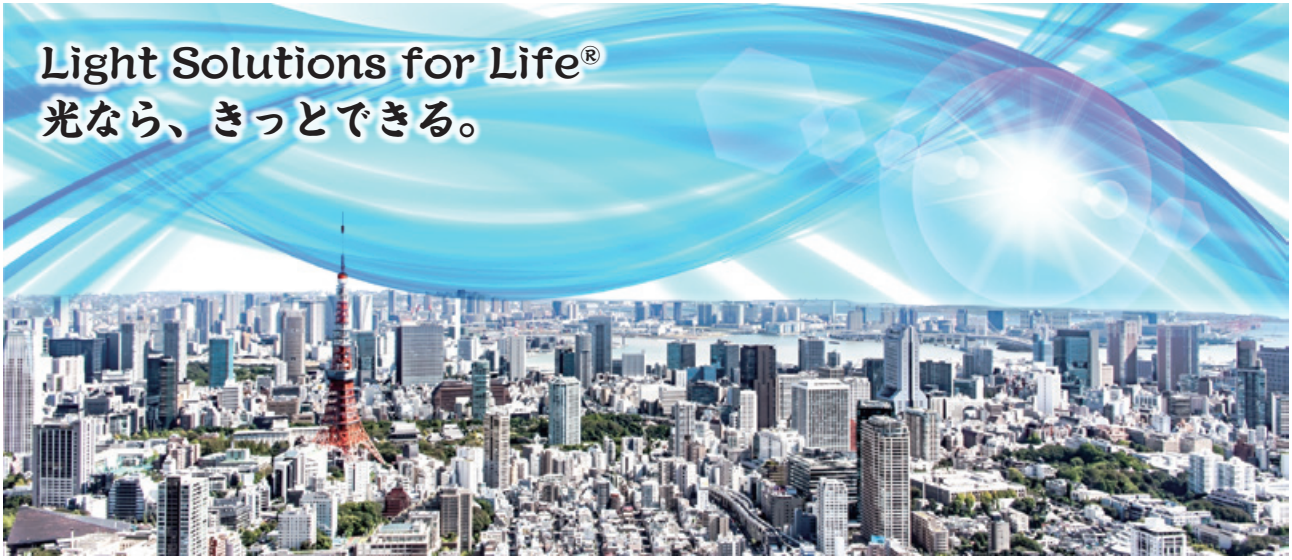
Contents

株主の皆様へ
2019年5月期業績のポイント（連結）
2019年5月期業績（連結）
2019年5月期セグメント別概況（連結）
2020年5月期業績見通し（連結）
2019年5月期海外業績の概況（連結）

Topics
- こんなところにシグマ光機 ― レーザ加工
- 新製品紹介　倒立型OUCIユニット（位相差顕微鏡）
- 海外展示会出展

CSR活動
Topics　キャラクター誕生「OPMA・KOPMA」
株主様アンケート結果のご報告
連結財務諸表
株式の状況／会社概要

株主の皆様へ



経営理念

我社は光産業を通じ、社会に貢献します。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「感謝」「挑戦」「創出」

世界各国の技術革新の進展とともに、研究開発や生産活動における「観察」、「加工」、「検査」等に要求される技術精度の水準はますます高まっており、「サイズ」、「位置」、「時間」等を微小な単位で計測・観察・加工が可能な高度な光技術の需要も年々広がりを見せております。

そのような中、シグマ光機グループは、光技術の需要の増大が見込まれる有力成長市場への新規参入や既存市場のシェア拡大に向けて、シンガポールでの子会社の設立、国内本社・日高工場への新棟の着工、国の研究開発プロジェクトへの参画等、新たな挑戦を続けました。また、社内外のネットワークを活用した「知の融合」、「人材の育成」、「ものづくり力の向上」を着実に推進し、発展著しい光産業への価値ある新技術・新製品の創出によって、当社経営理念の実現に取り組んでまいります。

引き続き、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上、そして安定的な株主還元等に努める所存でございますので、株主の皆様におかれましては、今後とも何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

シグマ光機株式会社

代表取締役社長　近藤 洋介

2019年5月期業績のポイント（連結）

景気の先行き不透明感が高まり横ばい推移

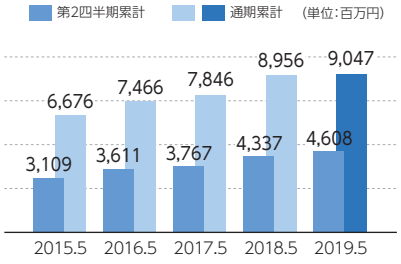
当期は、世界経済の先行き不透明感の高まり等を背景に、研究開発分野向け及び産業分野向けともに需要は横ばいで推移いたしました。国内・アジア地域では、バイオ業界向けは堅調に推移し、FPD業界向けや電子部品・半導体業界向けではやや減速基調で推移いたしました。また、防衛業界や医療業界向けの一部の大口案件が翌期にずれ込む等、総じて横ばいで推移いたしました。米国地域では、顧客の生産調整等の影響もあり需要は弱含みで推移した半面、欧州地域の需要は増加した結果、連結売上高は前年同期比で微増となりました。

利益率の高い製品群の需要減と成長投資の増加

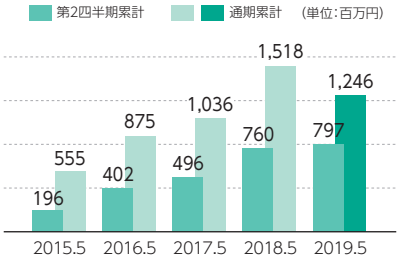
当期は、光学要素部品の需要は増加し、光学システム製品の需要は減少いたしました。産業分野における期後半からの設備投資の減速傾向等を背景に、光学素子・薄膜製品や光学システム製品等、利益率の高い製品群の需要がやや減少いたしました。また、全社的な経費削減や生産性改善等による費用の圧縮を進めましたが、事業拡大に伴う外部調達の増加、更なる技術力の強化に向けた試験研究費・設備投資の増加、海外グループ会社の人材採用等による人件費等が増加した結果、連結決算の利益の全項目は、前年同期比で減少いたしました。

2019年5月期業績（連結）

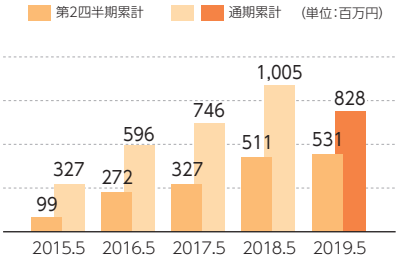
売上高 90億47百万円
（前年同期比 1.0%増）



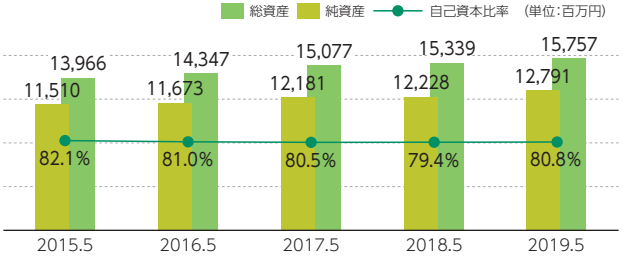
経常利益 12億46百万円
（前年同期比 17.9%減）



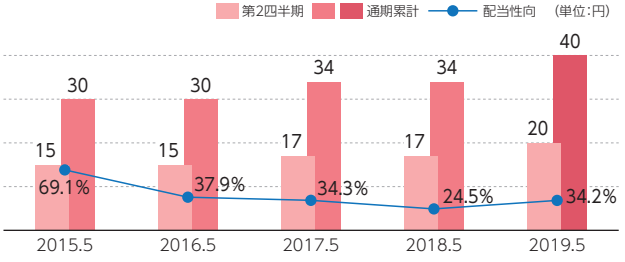
親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益 8億28百万円
（前年同期比 17.7%減）



総資産・純資産・自己資本比率



配当金、配当性向

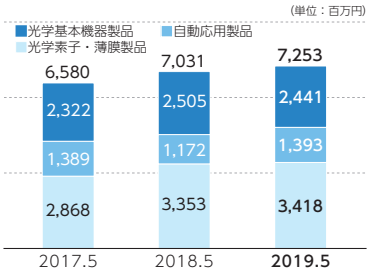


2019年5月期セグメント別概況（連結）

▶ 要素部品事業

■ 売上高

3.2% 増
（前年同期比 221百万円増）



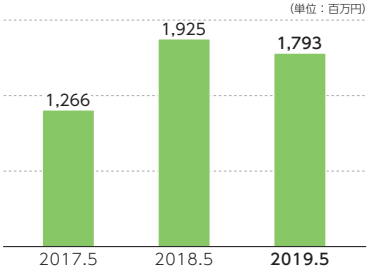
ポイント **期前半は産業分野向けが堅調に推移**

大学・官公庁向けは横ばいで推移いたしました。産業分野では、国内・アジア地域の電子部品・半導体業界向けは光学素子・薄膜製品が弱含みで推移いたしましたが、エレクトロニクス業界向けは全般的に横ばいで推移し、バイオ業界向けは自動応用製品が堅調に推移いたしました。また、米国地域は弱含みで推移し、欧州地域は堅調に推移いたしました。

▶ システム製品事業

■ 売上高

6.8% 減
（前年同期比 131百万円減）



ポイント **期後半から産業分野向けが減速**

期後半から産業分野の設備投資が減速局面に入り、需要は減少いたしました。FPD業界向けの光学ユニット製品の需要は、期初の堅調な推移から先行きの不確実性を反映して弱含みで推移し、バイオ業界向けの光学ユニット製品の需要は横ばいで推移いたしました。また、防衛業界、医療業界の需要は一時的な抑制傾向で推移いたしました。

2020年5月期業績見通し（連結）

世界経済の減速リスクが依然として懸念されますが、産業分野の設備投資の緩やかな回復が見込まれています。当社は、有力成長市場への展開及び既存市場におけるシェア拡大に向けて、ものづくり力の強化を進めています。要求精度の高い高難度な新製品・新技術開発の推進及び生産体制の強化に向けた研究開発投資・設備投資を継続し、着実な成長を図ってまいります。これらの取り組みによる収益力の向上を図り、第45期通期配当累計額は40円（予定）とし、安定的な配当を実施してまいります。

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	配当額
9,230百万円	1,130百万円	1,255百万円	840百万円	40円（※通期累計額）
（前年同期比2.0%増）	（前年同期比0.6%増）	（前年同期比0.7%増）	（前年同期比1.4%増）	配当性向（見通し）33.7%

2019年5月期海外業績の概況（連結）

NEW

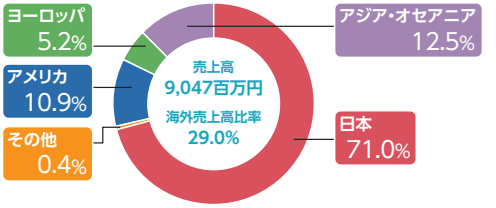
シンガポール子会社設立

OptoSigma SIGMAKOKI Group

東南アジアにおける事業拡大・市場深耕等を目的として、2019年4月から営業活動を開始しました。研究分野の高難度プロジェクト参加によるブランド認知度の向上や、ソリューション提案による産業分野のOEM獲得等を重点戦略として、売上拡大を目指します。また、代理店支援を強化するとともに、Webカタログを活用して販売活動を展開します。

●顧客所在地別概況

■海外売上高構成比



■顧客所在地別売上高・営業概況

日本	6,420 百万円	産業分野の設備投資が減速傾向で通期では横ばいで推移。FPD・電子部品・半導体業界向けは反動減の影響あり、防衛・医療業界向けは一時的な抑制傾向。バイオ業界向け堅調。
アメリカ	986 百万円	一部顧客の生産・在庫調整の影響等により、バイオ業界・医療業界向けや電子部品・半導体業界向けの組み込み用途の光学要素部品の需要が横ばいで推移。
ヨーロッパ	468 百万円	大学・官公庁向けが堅調に推移し、認知度も徐々に向上。産業分野向けも光学測定分野及び医療分野等を中心に需要が拡大。高難度案件対応等への取り組み推進中。
アジア・オセアニア	1,133 百万円	地域経済の先行き不透明感はあるが、中国は堅調に推移。FPDや半導体等のエレクトロニクス業界向けの組み込み用途の光学ユニット製品の需要は一時的に減速傾向。

》グループ会社概況

OptoSigma®

2019年度の売上高は前年比約6%減の$10Mとなるも、大口案件の受注等もあり、2020年度は回復を見込んでいます。人材・ITインフラ・販促活動等への投資を継続し、デジタルマーケティング・SNS活用等によるOptoSigma®ブランドの認知度向上に注力いたします。また、大学・官公庁等の顧客の新規獲得や高付加価値ユニット供給等による機会創出に努めてまいります。

OptoSigma Europe

欧州地域でOptosigma®ブランドの認知度が向上し、2019年度の売上高は前年比約27%増の€4Mを達成しました。Eコマースの拡大等、大学・官公庁、産業分野の成長を支え続けるため、2019年初秋に、1,500㎡の新社屋へ移転する予定です。新社屋では、顧客対応の強化に向けて物流センター及び在庫室を拡充し、また、光学製品の設計＆組立エリアを開設する予定です。

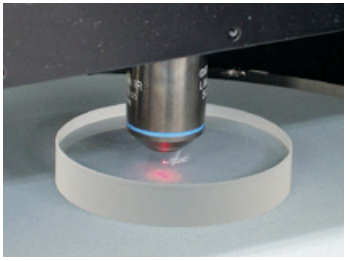
上海西格玛光机有限公司

第25期は節目の年として「生産性の向上とコストの低減」を命題に、更なる成長を目標として事業に取り組んだ結果、売上高が前年比約9%増の35百万元を達成しました。第26期は継続的成長と高付加価値製品の安定供給を目標に、生産技術と生産効率の向上に努めてまいります。

光の時代が来ています。― 活躍広がるレーザ加工

近年、ナノテク・バイオ等の研究開発分野をはじめ、半導体・ディスプレイ等の民生品分野や、光触媒パネル・燃料電池等のインフラ関連分野等、様々な分野で精密加工の要求が増えており、レーザによる微細加工が注目されています。また、多様化したレーザ発振器の普及に伴い、その応用装置であるレーザ加工機も、溶接・切断だけではなく、刻印・表面改質等にまで、活躍の場が広がっています。

レーザ加工は光技術の応用です。



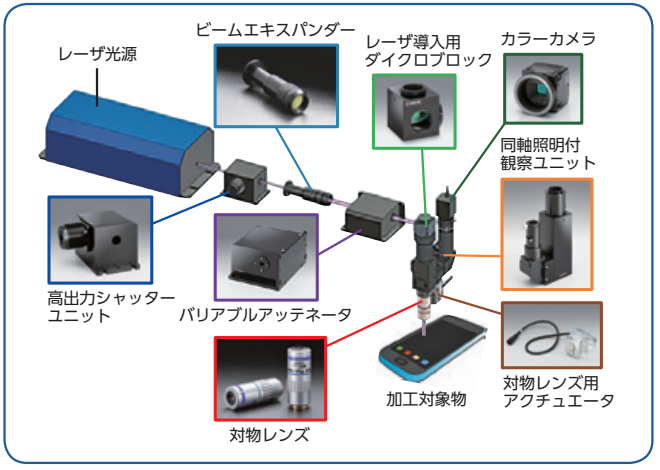
レーザ加工の特長　Point

①微細加工
②複雑な形状加工
③非接触加工
④ドライ加工
⑤非熱加工ができる等

レーザ加工関連ラインナップ

シグマ光機の製品は、レーザ加工に関わる
様々な実験装置や産業用設備等の中に組み込まれています。

レーザ加工の例：集光光学系（観察系付き）



研究開発分野で蓄積した技術力と
産業分野で鍛えられた生産体制・品質管理体制が強み

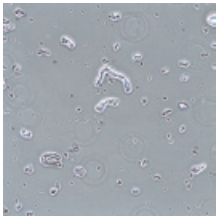
高精度・高精細なレーザ加工を実現するためには、レーザ発振器の性能向上はもとより、レーザビームを操るための光学製品が欠かせません。シグマ光機は、レーザの原理を追求する基礎研究及び製品化する前の研究開発等、最先端の研究開発分野で長年その発展を支え、ともに切磋琢磨してきました。一方、FPD・半導体・電子部品業界等の産業分野向けでは、レーザ加工装置への組み込み用途の光学要素部品及び光学ユニット製品等を供給しており、製品の企画・設計から製造・組み立てまでのワンストップ対応によるQ（品質）、C（価格）、D（納期）の柔軟な対応等に、お客様から高い評価をいただいています。

詳細な情報はこちらをご覧ください。https://www.global-optosigma.com/jp/application/laserprocessing/scan.html

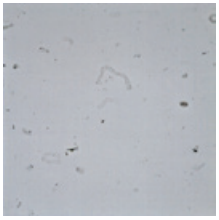
Topics　新製品紹介　倒立型OUCIユニット（位相差顕微鏡）

位相差顕微鏡ユニットは、測定したいサンプルと背景の、光の屈折率の差を利用して、コントラストを高めることにより、見えづらいサンプル（例えば無色透明等）を観察することができます。
このユニットは、小さなサンプル（例：細胞、微生物等）の観察に汎用性が高い製品で、医療・バイオ業界等の研究開発分野又は産業分野の分析装置等への組み込み用途としての活用が期待されています。

※位相板はスロット式で、観察中でも脱着可能です。



位相差観察

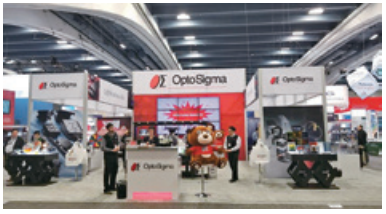


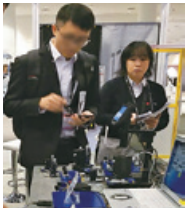
明視野観察

Topics　海外展示会出展

当期にも、世界最大規模の展示会「SPIE Photonics West 2019」をはじめ、アジア最大規模の展示会「LASER World of PHOTONICS CHINA 2019」や欧州開催の「Munich 2019」等、光学・レーザ関連の主要展示会に出展いたしました。「SPIE Photonics West 2019」では、正面入り口付近にブースを設置して、新製品ラインナップを拡充し、協力企業様とのコラボ製品を展示する等、多様化する顧客ニーズへの対応力をアピールいたしました。その結果、昨年度より多くの来場者にご訪問いただき、展示製品等につきましても高い評価をいただきました。今後も海外市場でのシェアアップを目指して、「OptoSigma®」ブランドの認知度向上策を力強く推進してまいります。

SPIE Photonics West 2019 (2月5日～7日)





LASER World of PHOTONICS CHINA 2019(3月20日～22日)

LASER World of PHOTONICS Munich 2019 (6月24日～27日)

1. 女性従業員の活躍推進

当社は、女性従業員を含む全ての従業員があらゆる分野において活躍の場を広げるため、個々の能力を発揮できる職場環境の整備及びワーク・ライフ・バランスの充実化に取り組んでいます。

女性活躍推進に基づく行動計画

■ **計画期間　2016年4月1日～2021年3月31日（5年間）**

■ **数値目標の進捗状況（2019年5月末日時点）**

・製造、開発職種の女性人員数　81名　⇒　97名（目標：99名）
・管理職の1つ下の階層（係長相当職）以上の女性人員数　10名　⇒　11名（目標：15名）

※詳細は当社ホームページをご参照ください。
URL：http://www.sigma-koki.com/pages/company/wlb_jp.php

働く女性サミット

当社独自の女性従業員育成プログラム「働く女性サミット」で、製造現場の理解を深めるために、東京・石川・大阪勤務を含む女性従業員8名が本社・日高工場を見学いたしました。

参加メンバーの8名の内、5名が海外展示会に参加経験があります。

2. 次世代育成への取り組み

当社では、地域貢献活動の一環として、本社・日高工場（埼玉県）と能登工場（石川県）で、地域の中学校、高校から学生の職場体験学習や工場見学の受け入れを行っています。次世代を担う子どもたちの学習意欲向上や勤労観、並びに社会性を育むための一助になるべく、本社・日高工場では、2007年から地域の中学生を対象に、3日間の職場体験活動「3daysチャレンジ」を実施し、毎年2～3名の学生に当社のものづくりを体験いただいています。

Topics　キャラクター誕生「OPMA・KOPMA」

シグマ光機ブランド「OptoSigma®」のキャラクターが誕生いたしました！

▲キャラクターグッズ（ぬいぐるみ）
今後グッズを増やす予定です。

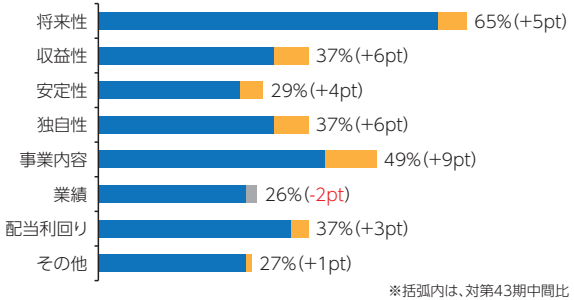
世界最大規模の展示会「SPIE Photonics West 2019」で、「OPMA（オプマ）」、「KOPMA（コプマ）」が世界デビューいたしました。展示会では、ノベルティとしてキャラクターグッズを配布させていただき、来場者からも大変ご好評をいただきました。今後、両キャラクターには、海外での当社ブランドの認知度の向上に向けて、お客様との「ナビゲーター」、「コミュニケーター」、「アイキャッチ」の大きな3つの役割を担ってもらいます。

株主様アンケート結果のご報告

株主様アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

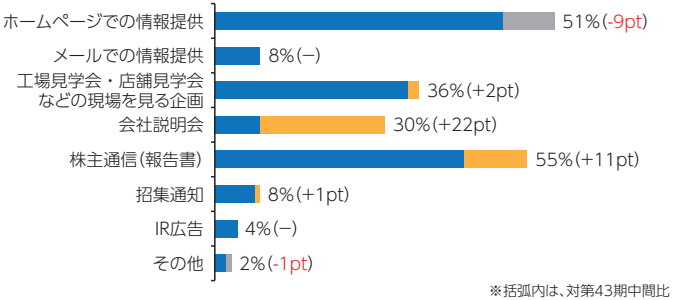
第44期中間報告書で実施させていただきましたアンケートにつきまして、アンケート対象の全株主様3,988名（2018年11月30日時点）の約2%に相当する89名の株主様からのご回答をいただきました。お寄せいただきましたご意見・ご要望等は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。

●当社株式を購入された理由



※括弧内は、対第43期中間比

●充実を期待するIR活動



※括弧内は、対第43期中間比

株主様からのご意見

Q 半導体業界動向等がどう影響していくか気になっています。

A 国内外の半導体関連の設備投資が増加すると当社製品の需要も増加する傾向がございます。近年、最先端の製造技術を必要とする半導体業界では、微細加工や精密検査等の工程において光技術が不可欠となり、製造装置及び検査装置への組み込み用途として、当社製品をご採用いただく機会が増加いたしました。今後は、バイオ・医療、通信、防衛等、将来成長が見込める業界にも積極的に事業を展開し、持続的な安定成長に取り組んでまいります。

Q 技術力の優れた光関連メーカーとして、今後とも特色のある製品を開発していただきたい。

A 当社は、社会が求める光技術・光学製品の開発を力強く進めています。大学・官公庁等の研究機関向けでは、最先端の研究を支える高難度光技術の開発を進めており、産業分野向けでは、高品質・高付加価値の新製品開発及び短納期・安定供給を実現する生産技術の開発に取り組んでいます。また、海外グループ会社及び外部専門機関等との情報共有や協業を強化する等、市場が求める新製品の早期市場投入を強力に進めています。

株主様からのご意見・ご要望のご紹介

- 独自の技術が業績の向上につながり、株価に反映されることを期待します。
- 光技術を通じて社会へ貢献し続けていってほしいです。
- 貴社の事業内容を熟知している訳ではないが、事業の将来性に期待しています。
- 東京での個人向け会社説明会の開催を希望します。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科　目	当　期 2019年5月31日現在	前　期 2018年5月31日現在
(資産の部)		
流動資産	8,887	9,100
固定資産	6,869	6,239
有形固定資産	3,439	2,756
無形固定資産	152	142
投資その他の資産	3,277	3,340
資産合計	15,757	15,339
(負債の部)		
流動負債	2,072	2,106
固定負債	893	1,004
負債合計	2,966	3,111
(純資産の部)		
株主資本	12,476	11,910
その他の包括利益累計額	255	263
非支配株主持分	59	55
純資産合計	12,791	12,228
負債・純資産合計	15,757	15,339

連結損益計算書

(単位：百万円)

科　目	当　期 2018年6月 1日から 2019年5月31日まで	前　期 2017年6月 1日から 2018年5月31日まで
売上高	9,047	8,956
売上原価	5,371	5,122
売上総利益	3,675	3,833
販売費及び一般管理費	2,551	2,400
営業利益	1,123	1,433
経常利益	1,246	1,518
親会社株主に帰属する当期純利益	828	1,005

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科　目	当　期 2018年6月 1日から 2019年5月31日まで	前　期 2017年6月 1日から 2018年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	869	986
投資活動による キャッシュ・フロー	△825	63
財務活動による キャッシュ・フロー	△420	△941
現金及び現金同等物に 係る換算差額	33	△48
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	△343	60
現金及び現金同等物の 期首残高	2,859	2,799
現金及び現金同等物の 期末残高	2,516	2,859

》》解説ポイント

●連結貸借対照表

<資産の変動>

流動資産は、前期末比で2.3%減少いたしました。これは、原材料及び貯蔵品が増加し、現金及び預金、電子記録債権がそれぞれ減少したことなどによるものです。固定資産は前期末比で10.1%増加いたしました。これは、新工場棟建設のための建設仮勘定が増加した他、機械装置及び運搬具が増加したことなどによるものです。この結果、総資産は前期末比で2.7%増加いたしました。

<負債の変動>

流動負債は、前期末比で1.6%減少いたしました。これは、支払手形及び買掛金が減少したことなどによるものです。固定負債は、前期末比で11.1%減少いたしました。これは、長期借入金が減少したことなどによるものです。この結果、負債合計は前期末比で4.7%減少いたしました。

<純資産の変動>

純資産は、前期末比で4.6%増加し、自己資本比率は、80.8%となりました。

●連結キャッシュ・フロー計算書

当期の現金及び現金同等物は、前期末比で3億4千3百万円の減少となりました。

営業CFは、減価償却費、売上債権の減額でそれぞれ増加し、法人税等の支払、棚卸資産の増加でそれぞれ減少いたしました。

投資CFは、有価証券の償還による収入で増加し、新工場棟建設や生産設備の取得といった有形・無形固定資産の取得による支出などで減少いたしました。

財務CFは、長期借入れによる収入で増加し、配当金の支払、長期借入金の返済などの支出により減少いたしました。

詳細な情報はこちらをご覧ください。http://www.sigma-koki.com/pages/ir/index_jp.php

株式の状況（2019年5月31日現在）

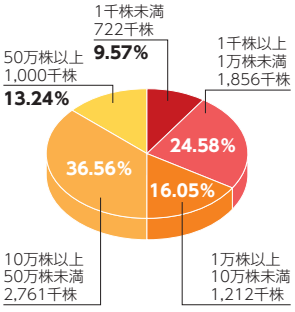
①発行可能株式総数	32,000,000株
②発行済株式の総数	7,552,628株
③株主数	4,244名 （前期末比726名増）

④主要株主

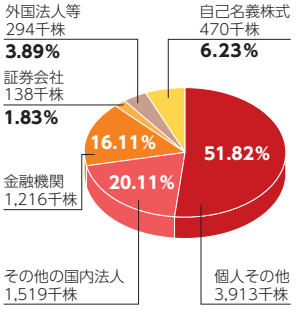
株　主　名	所有株数（千株）	持株比率（%）
浜松ホトニクス株式会社	1,000	14.12
シグマ光機取引先持株会	386	5.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	222	3.14
シグマ光機従業員持株会	213	3.01
株式会社埼玉りそな銀行	203	2.87
富国生命保険相互会社	200	2.82
株式会社津島建材	182	2.57
森　聆二	164	2.32
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	150	2.13
株式会社サンライズクリエート	148	2.09

（注）1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しております。
3. 持株比率は、自己株式（470,304株）を控除して計算しております。

所有株数別株式分布状況



所有者別株式分布状況



（注）1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しております。
3. 自己名義株式（470,304株）を含んでおります。

会社概要（2019年8月29日現在）

社　名	シグマ光機株式会社
本　社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
設　立	1977年（昭和52年）4月
資本金	26億2,334万円
従業員数	338名（2019年5月31日現在）
役　員	代表取締役社長　近藤洋介 取締役　中村良二 取締役　多幡能徳 取締役　小林祐二 常勤監査役　山口秀一 監査役　南雲幸一 監査役　野﨑誠

（注）1. 小林祐二氏は社外取締役であります。
2. 南雲幸一氏及び野﨑誠氏の2氏は社外監査役であります。
3. 社外監査役 野﨑誠氏は独立役員であります。

主な事業所

- 本社・日高工場
- 東京本社
- 大阪支店
- 九州営業所
- 能登工場
- 技術センター

関連会社

- OptoSigma Corporation
- OptoSigma Europe S.A.S.
- OptoSigma Southeast Asia Pte. Ltd.
- 上海西格瑪光机有限公司
- タックコート株式会社

当社の報告書は、「UDフォント」を採用しています

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン(UD)書体を使用し、弱視・老眼等視力の低下にお悩みの方にも読みやすいよう配慮をしております。

文字使用例
（従来）S36 ▶（今回）S36

株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会	毎年8月開催
基準日	定時株主総会　毎年5月31日 期末配当金　毎年5月31日 中間配当を行う場合は、毎年11月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
電子公告URL	http://www.sigma-koki.com/

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部

（電話照会先）フリーダイヤル 0120-782-031（通話料無料）
（インターネット ホームページURL）
https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご留意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉
（特別口座　口座管理機関）みずほ信託銀行株式会社
（郵便物送付先）〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）0120-288-324（通話料無料）

株主の皆様の声をお聞かせください

下記ＵＲＬにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。
ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます
※なお、抽選は同時期に実施されている他社株主アンケートへの回答者を含めて行われます。

https://www.e-kabunushi.com
アクセスコード 7713
いいかぶ　検索

空メールにより URL自動返信
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からも アクセスできます
QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

e-株主リサーチ
※本アンケートは、株式会社 a2media（エー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
（株式会社 a2mediaについての詳細　https://www.a2media.co.jp）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。
●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-6779-9487（平日 10:00～17:30）MAIL:info@e-kabunushi.com

シグマ光機株式会社
東京本社　東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221（総務部）

UD FONT
FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080
VEGETABLE OIL INK